

林大の風

第43号 高知県立林業大学校

「林業架線作業主任者講習」

本年も専攻課程森林管理コースと林業技術コースでは、林業架線作業主任者免許を取得すべく、学科講習と実技講習を行いました。

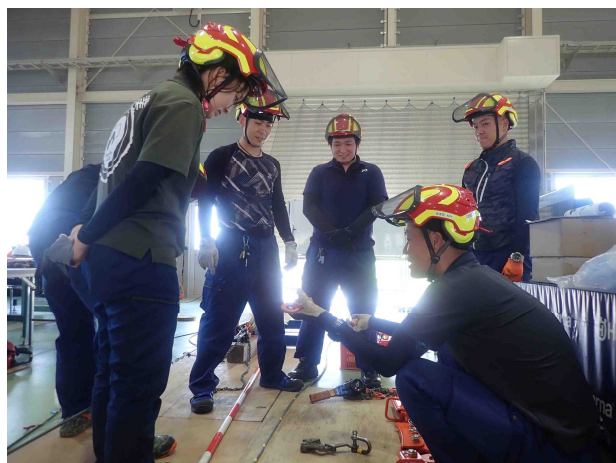
高知県は急峻な地形が多く、昔から架線技術が発達している地域です。この講習では、架線技術



を継承し、将来的に林業架線作業主任者となるために必要な知識と技能の習得を目指します。

受講前には、高知県立森林技術

センターの山崎課長にご協力いただき、架線作業において覚えておくべき数字（ワイヤクリップの留める間隔や控索を張る上で必要な角度の考え方など）や器具を使ってワイヤーを止める方法など、講習を受ける上で役立つ内容を教えていただきました。



また、林業大学校の実習棟内に設置されている架線シミュレータを使用した運転実習も行い、架線作業についてのイメージを持つこともできました。

学科講習では林業架線に関する基礎的な知識を始め、関係法令や力学的な計算など幅広い内容を

学びます。研修生は、聞き慣れない用語や安全な架設・架線集材作業を行う上で守らなければならないルールなど



をしつかりと学び、全員が無事に学科試験に合格することができました。

実技講習では、実際に現地で索張りを行います。まずは、集材装置、先柱、元柱などを設置後、ドローンを活用してリードロープを張り、主索や作



業索を順番に架設しました。また、学科講習で学んだ振動波による主索緊張度の検定も行い、安全を確認した後、集材機の運転技術や集材木の荷掛、無線の伝達方法について学びました。

今回エンドレスタイラー式の索張り方式にて架設を行いました。加えて、搬器等を集材点から林内に引き戻すための作業索である引戻索（ホールバックライン）も設置しました。そのため、運転

実習ではホールバックラインを動かしながら、エンドレスラインをフリー状態にする操作や必要に応じてブレイキ操作を行うなど、複合的な操作が必要となり、研修生が苦戦する場面もありました。また、班ごとに分かれて、荷下ろし場・先柱側からの無線による指示に従って架線集材作業の実践を行いました。中でも、先柱側での搬器に吊り下げた荷において、障害物を避けるなどの微調整が必要な動きには的確な指示を分かりやすく運転者に伝えることが重要であることを学ぶことができました。

今回学んだ技術を活かし、林業架線作業の業務



に2年以上従事したあと林業架線作業主任者免許の申請が可能となります。
全国的に見ても先進的な取り組みを行ってきた高知の林業架線技術を、本校研修生が継承し、牽引していくことを願っています。

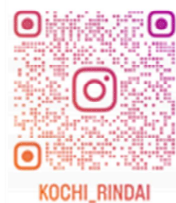
日々の”活動報告”やってます！

林業大学校のHP・各種SNSでは、今回紹介させていただいたような講義や実習についての活動報告を紹介しています。

興味がある方は是非ご覧下さい。（下記QRコードより閲覧できます）



HP



Instagram



Facebook



X